

令和 8 年

子ども若者支援・共生社会推進特別委員会会議録

と き 令和8年1月20日

品 川 区 議 会

令和8年 品川区議会子ども若者支援・共生社会推進特別委員会

日 時 令和8年1月20日(火) 午後1時00分～午後3時10分

場 所 品川区議会 議会棟6階 第1委員会室

出席委員	委員長	せ お 麻 里	副委員長	ゆ き た 政 春
	委員	西 村 直 子	委員	澤 田 え み こ
	委員	お ぎ の あ や か	委員	つ る 伸 一 郎
	委員	鈴 木 ひ ろ 子	委員	せ ら く 真 央

出席説明員	佐藤 子ども未来部長	上野 子ども育成課長
	寺嶋 福祉部長	東 野 参 事 (福祉部福祉計画課長事務取扱)
	柴田 子ども施策連携担当課長	

○午後1時00分開会

○せお委員長

ただいまから、子ども若者支援・共生社会推進特別委員会を開会いたします。

本日は、審査・調査予定表のとおり、特定事件調査、視察およびその他を予定しております。

なお、大倉委員は本日ご欠席されるとご連絡をいただいております。

本日も効率的な委員会運営にご協力をよろしくお願いいたします。

2 視察

○せお委員長

それでは、予定表の進行順を入れ替え、予定表2、視察を議題に供します。

予定表のとおり、子ども若者応援フリースペースへの視察を行います。

初めに、本日の全体のスケジュールについてご案内します。

この後、委員会を休憩し、ワゴン車2台で子ども若者応援フリースペースまで移動し、現地を視察します。視察先では、施設内の見学および施設先職員からの説明、質疑を予定しております。視察終了後、14時半頃に庁舎へ戻り、委員会を再開します。その後、特定事件調査として、若者に関することを議題として議論を行う予定です。

次に、留意点についてです。

視察先、施設内での写真撮影等はお控えいただきますようお願いいたします。休憩後に、こちらの委員会室は施錠します。お荷物は委員会室に置いて行っていただいても結構です。

また、休憩後に放送を入れます。第三庁舎2階横に停車しているワゴン車までご参集ください。なお、SDGs推進・行財政改革特別委員会も視察を行うため、マイクロバスが停車しておりますが、乗車をお間違いないようご注意ください。

それでは、これより視察に向かいます。第三庁舎2階横に集合してください。

会議の運営上、暫時休憩します。

○午後1時01分休憩

[視察場所：子ども若者応援フリースペース（品川区西品川1丁目16-2 ファミーユ西品川）]

○午後2時35分再開

1 特定事件調査

若者に関すること

○せお委員長

これより、子ども若者支援者・共生社会推進特別委員会を再開します。

それでは、予定表1の特定事件調査を議題に供します。

若者に関することについて、調査を行います。子ども若者応援フリースペースについて、本日の視察の振り返りを行いたいと思います。併せて、本件に関しましてご質疑、ご意見、ご提案等がありましたら、ご発言願います。

ちなみに、本日は資料がありませんので、前回の資料を参考になさってください。

○西村委員

今日は、ありがとうございました。

若者ということで、私もずっと考えていたことが少し見えてきたかということを経験を拝見して思っていたのですけれども、先ほども申し上げたみたいに小学生から39歳くらいまでの方々が同じ空間にいるというのは一体どういう状況なのかと思ったときに、まさかこんなふうに部屋が分かれているところまで実際に見ないと想像ができなかったというふうに改めて思いました。

代表の中塚さんのお話を聞いていると、若者の支援に関してもっと拡充できないのかと思ったときに、子どもから若者まで、39歳までの方が同じ空間にいたほうがいいのか、それともなかなか適地は難しいかもしれないのですけれども、子どもと若者を分けたほうがいいのか。最後に不登校支援のお話を聞かせていただいたのですけれども、マイスクールではできないことをすごくしていただいているという印象がありまして、お伺いできればと思います。

○柴田子ども施策連携担当課長

ご質問、ありがとうございます。

ご覧いただきましたとおり、フリースペースに関しては火曜日、木曜日が若者中心、月曜日、水曜日、木曜日が小学生などの十代中心という形で運営をしておりますが、明確に区切りをつけているのではなく、緩やかに相互に利用しているというお話もあつたとおりでございます。

そして、この間に我々も今の状況というのも分かりつつ、今後さらに発展していくためにいろいろな場所と申しますか、自治体のフリースペースのようなところを見て回っているところです。

そして、年齢に関しては、しっかり分けているところのほうが多いです。その理由を聞きましたところ、やはり双方が居づらくなってしまう。曜日で分けるということはないで、若者の場所、それから小学生の場所、そういった形で区切りをつけているところが多くありました。しかしながら、年齢を超えた交流というところも非常に双方にとって学びだったり経験というところになりますので、その辺はまだ区としていろいろな形があるというところで、研究の段階であるかというふうに考えているところでございます。

○西村委員

すごくよく分かります。アルバイトの経験をさせているというお話もすごく刺さったのですけれども、料理を振る舞う先に子どもたちがいるから、一緒にいる仲間がいるから食べていただいて、またうれしいというふうな経験と自信につながっていくのだろうなということを思うと、本当に小学生から39歳までが一緒にいる空間を自治体がやっているということは、相当まれなのではないかというふうに思っていたので、今のご答弁をいただいてなるほどと思ったのですが、もう1点だけすみません。

お話を聞いていて課題だと思ったのは、精神的なケアが必要な若者の方への支援の拡充については心理士などの不足もすごくあると思うのですが、生活自立訓練の事業所が1箇所しかないですとか、B型作業所も若者向けにできないのかというふうなご意見があつたところですが、どのように区としてできるのか。あと、二十代が通える精神のデイサービスがないというのもいろいろな自治体での課題なのかと思うのですが、この辺りを伺えたらお願いいたします。

○柴田子ども施策連携担当課長

先ほど、視察の説明の冒頭のところで精神科のドクターがいらっしたというお話があつたかと思うのですが、そちらに関してはフリースペースのほうで委託をしている24時間見守りサービスというものがありまして、その嘱託医の先生が来て来ています。本当にありがたいというふうに受け止めております。

そして、そうした精神的な疾患ですとか、そういったメンタルの不調を抱えた子どもたちの居場所と

ということになると、区内では本当に限られたところかというふうに思います。保健センターでしたり、児童相談所、子ども家庭支援センター、そうした専門職がいるところにつながりがあるというところではございますが、ニーズというところはやはりあるというのも今日のお話を通じて感じましたので、今後はそのニーズをしっかりと把握して対応していく必要があるというふうに考えております。

○澤田委員

いろいろとご説明、ありがとうございました。

今度、2箇所目ができるかもというところで、お話を聞いていて1箇所だけでは小学生が距離的に通えないのではないかとということがあったので、ちょうどいい場所にとするか、本当だったら病児保育ではないですけども、本当に子どもたちが通える範囲にああいう羽を休める場所とのか、傷ついた気持ちを回復する場所が児童館等とはまた別にあるといいなということでは思いました。次の場所ができるというところで、そこでは先ほど代表の中塚さんからの説明にもありましたけれども、生活自立訓練だったりB型作業所だったり訪問看護との連携というところで、そういうものも一緒に組み合わせられたりするのということをお聞きしたいと思います。

○柴田子ども施策連携担当課長

様々な利用者に対応できるような幅広い機能を持つというのも一つグッドアイデアだというふうに考えているのですが、フリースペースに関してはまずは居場所という形で置いている事業でございますので、今視察に行っていたところはかなり実力があるところというふうに区としては認識しています。フリースペースというところを考えると、まずは居場所というところに重点を置いて今後検討していくという考えでございます。

○おぎの委員

ありがとうございます。

今日見させていただいて、ニーズがすごく多いと痛感いたしました。複雑なご家庭であったり、それ以外でもやはり今の環境は低年齢からの受験戦争であったりとか、学校でもいじめの問題とか、本当に生きづらさを抱えている若者、子どもから大人までですけども、そういった居場所というのはすごく必要だと思います。

それで、自分も何かをやってあげて本当は役に立ちたい、そういった場所を探しているのかと思っています。こちらでそうやって集まって、最初はいろいろメンタルとかを病んだりして、そういったところに行き着いて、でもそこでほっとして元気になって、自信を持って、次はそういった子たちがまた別の子たちの話を聞くお兄さんになってあげたりとか、助ける側に回ってあげる。最終的にはそういう場になったらいいと思うのですが、そういうのはいかがでしょうか。

○柴田子ども施策連携担当課長

ただいま委員からお話がありました、利用者からスタッフへというようなところかと思いますが、実例ですけど、今日の視察の中で、皆様に何人かスタッフの紹介が中塚代表からあったと思うのですが、実はその中に1人もともと利用者だった方が常勤職員として働いています。それは、そこでの経験、自身が不調だった時期を乗り越えたからこそできるサポートがあるということで、ユースワークの勉強の場にもいらっしゃっていますし、そうしたところでご自身の経験とこれからの展望なんかも話してくれていて、そういった利用者から支援者といった流れというのは現状もできておりますので、そういった部分は今後も大切にしていきたいと考えております。

○おぎの委員

ありがとうございます。

やはり、痛みを知っているからこそほかの子にも優しくできるみたいな、いろいろな暴力とかいろいろな言葉で心を痛めてしまう子は、もともと本当に優しい子だと思います。ですので、本当にそういった子が自信を持って次は助ける側に回るとい、今後もそういった取組をぜひゆっくりでいいので進めていただきたいと思います。

あと、1点です。町会と一緒に餅つき大会に参加したりとか、やはりその中だけでなく町会でも人間関係をどんどん広げていって、また、町会の中での別の場所を見つけていってほしいと思いますので、2件目をつくるときにもぜひまた地元の町会の方ともご協力いただきながら進めていっていただきたいと思います。これは要望で終わります。

○鈴木委員

前回いただいた資料で、改めてストレスや生きづらさを感じましたかというアンケートに対して、中学生の46.4%が感じているで、その上の若者になると88%がストレスや生きづらさを感じているという回答をされているところで、生きづらい社会というのが本当に大本にあるのだというふうに思いました。そういうところで、今回視察をさせていただいたフリースペースのような取組というのは本当に大事だと改めて思いました。

そのところで、先ほども皆さんからも出ていましたけれども、多くの方が抱えているのがやはりメンタルヘルスの問題で、デイケアや生活自立訓練、若者向けのB型などが足りないというところで、そういう受皿が必要だというふうなところは障害者福祉課との連携が必要になってくるかと思います。その辺の連携というのは、どういう状況になっているのかということを知りたいと思います。

かなり精神に特化した訪問看護ステーションというのもできているので、私は大人の部分では訪問看護ステーションにお世話になって、相談を受けた方は何人もいらっしゃるという思いがしているのですが、こういう若者とかでも訪問看護ステーションを使っているという、そういう状況というのはあるのか。そういう実態が分かったら、教えていただきたいと思います。

それから、ここの団体が10団体で一般社団法人子ども若者応援ネットワーク品川というものをつくって、様々な子どもに寄り添った活動をされている、本当に熱心にやられて、皆さんが力を合わせている。いろいろなネットワークだったりとか取組の広がりというふうなところにもなっているのかという思いがしました。そこで、運営委員会が毎月行われていると伺いましたけれども、これは区の職員はどなたが入られているのか。それから、子ども若者協議会というのもあってもいいのではないかというものご意見としてあったと思うのですが、このことに対しての区の考え方についても伺いたいと思います。

○柴田子ども施策連携担当課長

まず、フリースペースと関係機関の連携のところからお話をさせていただきます。ただいま委員からもご案内いただきましたとおり、10法人でネットワークを形成しております。しかしながら、このそれぞれの団体にはつながっているネットワークがそれぞれにありますので、枝葉を含めると50団体は下らないかという認識でおります。そして、それぞれ得意分野、専門分野があらうかと思っておりますので、誰かがニーズをキャッチしたらしかるべき団体につなげるというのは、常に実施しているというふう聞いております。

ちなみに、この10団体ですけれど、最近2つ増えて8だったのが10になっています。障害系のところが入ってきたりしているので、こういった町場の皆さんのネットワークというのは今後も区として

応援していきたいというふうに考えております。

また、重層支援のほうにも今回のフリースペースに参加していただく機会もあったりしまして、そういったところで区の関係部署とのつながりも生まれている現状がございます。

それから、ネットワークの運営委員会のところに区の職員が参加させていただいているのですが、毎月1回係長級の職員、それから担当の係員の2名が必ず行って、半日みっちり情報共有をさせていただいています。新しい取組とかもそこでご紹介させていただいているので、区の職員も大変勉強になっているというところがございます。

それから、協議会に関しましては、区のほうでもただいま子ども・子育て会議ですとか青少年問題協議会とか、様々な協議会がございますので、そういったところとの整理も必要かというふうに思っておりますので、まずは研究するところからスタートかというふうに認識しております。

○つる委員

何年かぶりに状況を確認させていただいて、そのときよりも少しいろいろと充実しているのかということを感じました。

鈴木委員のほうからもあって、区が月1の運営委員会とか、どういう形なのかと今伺ったとおりです。

あと、現場で聞けばよかったです、あの場所から就職につながったという話もあったのですが、逆にあそこに来て就職につながるというのは何かしらの形で法人や企業にアプローチしているところがあると思うのですが、そうした法人にフリースペースを見ていただいたりとか、そういうケースというのはどのくらいあるのか。

○柴田子ども施策連携担当課長

フリースペースを法人に見ていただく機会というのは、定例で設けているということはありません。口コミで、先ほどもおはもふというお話があったと思うのですが、そういった方々がまずつながっている。そこから、ニーズがある関連企業とかが紹介をするというお話は聞いているのですが、積極的に企業に来てもらって様子を見てつながるということは、現状はできていないということです。

○つる委員

当然、フリースペースの存在意義というか、その部分でいうと就職とか決まった形でルーチンで入っていくということだけが1つの正解であってイコールではないという前提はあると思います。ですが、その上で初日なのか何日なのか何年なのかというのは一人一人によって違うと思うのですが、四角張ってやるとなかなか抵抗感があるかもしれないので、企業とかの訪問を自然な形で、触れ合う機会というのですか、事業紹介とまでいくとまた四角四面になってしまうかもしれません。さっきあの場で伺ったような取組、実際にやっていただいているというのはもうあると思います。けれども、もっと幅広く、そういう形でよく見ていただくというのは、「実はこういう人材を求めていたのです」というようなところのまさにマッチングにつながっていけば良いと思います。先ほどの午前中の2時間の調理の仕事はすごくすばらしいことだと思ったのですが、何らかの自信の次のステップになっていく機会になるのではないかとすると、逆にあの場所にいろいろ来ていただく機会というのをいろいろな形でつくっていただくことはいいのかと思います。それは、ネットワークの各法人がそれぞれ持っているつながりだとかそういうのがあって、月1のところでは情報共有というか、そういうことがあると思うのですが、そういう機会を区としても何かしらの支援と言いましょか。というのは、例えば一応39歳までとなっていますよね。そうすると、その先のつながりとかつなぎというか、その部分のところの品

川区で見ると、知っていますか。若者ケアラーの冊子の最後のページにも暮らし・しごと応援センターの記載とかがあったりします。もっと幅広の世代というか、年代のつながりの部分を誰がコーディネートをしていくのかと、当然そこが区だったりネットワークの法人だったりとか、いろいろあると思うのですけれども、そういう企業の積極的な訪問というのでしょうか。視察という部分と、あとはここに来ているそれ以外の世代のつながり、つながりというのはどのような形で今進めているのか教えてください。

○柴田子ども施策連携担当課長

ただいま、委員からご提案いただいた、1つ目の企業に来てもらうという取組はいかがかというところでございます。本日、視察で触れ合っていたいただいた利用者、若者は、挨拶をすると必ずこちらに挨拶を返してくれて、すごく感じのいい若者が多くいるというふうに思っています。能力の高い方も多いというふうな話も聞いています。ですので、そうした方々が様々なチャンスと出会えるような取組。ハローワークに同行してもらってつながるというパターンもあるのですけれども、来てもらって能力を活かすという観点で見てもらうのもそうですし、若者たちにチャンスをつかんでほしいと思う企業がいたら、なおさらそういったところはつながっていただきたい。代表とも話す機会がございますので、その辺を1つのアイデアとしてありがたくいただければと考えております。

それから、つながりのコーディネートの部分ですけれど、実際にお仕事関係でいきますと、エールしながわの短時間の作業、軽作業でしたり、ハローワークのほうに実際に代表やスタッフが一緒に行って話を聞いて仕事につながっているという、そういった実績もありますので、先ほどの企業に来てもらうというのも併せて、子どもたちの羽ばたく機会というのを数多くつくっていければというふうに考えております。

○つる委員

ありがとうございます。

若者となっている概念がいろいろとあって、ここでは39歳となるのですけれども、代表の中塚さんのほうからも重層とかの関連もという話もあったわけで、あそこは子どもと若者のフリースペース、居場所ですが、いろいろな人生の起点で居場所が必要だと出てくるときには、今すでに品川区でいろいろやっていたところというのはあると思います。ですが、場所であるがゆえにハードルが、敷居が高いというケースもあるでしょうし、今はCMでも1人が好きだけでも孤独は嫌いとかありますが、その辺の関わり方、つながり方とかは、生活動線上にそういうものがあって自然とふらっと立ち寄れるというような品川区内の仕掛けづくりがあるといいのかと思いました。なので、その先の世代的な部分を見越して、ある程度若者のところを中心とした施策をやっていかないと、そこが狭間になってもいけないのかなというのはすごく感じたので、その人の人生をどういうふうにして自治体側として見て、法人も含めてそこをまさにつないでいくのかということが重層とか、そういったところもなってくるのかと思います。足らざるところはああいった現場でやっていたらの方でデイケアの話もあって、先ほどの質疑でもありましたけれども、そういったことになるのかと思いましたので、ここは若者の部分ですが、そうしたところを見越した今後の拡充策というのはいろいろ考えてもらいたいと思いました。

それと、改めてですが、現在の分母というのでしょうか。想定の対象者数も含めてですけれども、前回の委員会でも資料があるのですけれども、フリースペースだけではないのですが、どのくらいキャッチできているのかということについて。今の若者ケアラーの冊子を読んでいたら本当に涙が出るくらいの体験の話が紹介されているのですけれども、10法人がある中でいろいろなところでキャッ

ちいただいていると思うのですが、潜在的な部分でどれくらいあって、どれだけキャッチできているのかということ、前後してしまうのですが、教えてください。

○柴田子ども施策連携担当課長

潜在的ニーズも含めてどれだけキャッチできているかということですのでけれども、非常に難しい部分であるというふうには受け止めています。どうしても表出できる方というのはつながっている。けれども、表出できない方というのはずっと家の中にいる。そういった方々のニーズのところまで手が届いていない、聞けていないという、実際のところはそのような状況にあると思っています。

ただ、現場で話を聞いていると、そういったところに何かしらの形で手が届くように、それが学校であったり家族の支援であったり、様々なところでリーチできるような仕組みというものをそれぞれ工夫しながらやってくれているので、我々もそういったところをしっかりとサポートしながら一緒になって考えていけるように、今後様々進めてまいります。

実際のところのニーズというのは、どこまでというのははっきりと申し上げられません。

○ゆきた副委員長

本日の視察を通して、子ども、若者が落ち着ける場、逃げ場というか、何もしなくてもよくて行ける場の需要が必要ですし、需要もこれから伸びていくだろうというふうに感じました。

約200名の登録で、平均20名というところ。その上で、スタッフの人数は20名とありましたが、どのようにスタッフの求人について周知をしているのか。スタッフは区内の方か、それ以外からも来られているのか。本日の話からだ、子ども、若者もいろいろな支援の機関から紹介されてつながったところから募ってきているということもあったのですけれども、スタッフ側も支援機関からつながってここで働きたいとか、そういったことで来られているのか。その辺についてお聞きできればと思います。

○柴田子ども施策連携担当課長

スタッフの属性ですとか、つながってどのように来てくれているかということかと存じます。まず、20名というお話があったのですけれども、コアスタッフというのは本当に4名、5名というような体制です。そして、それ以外の方はどのような形でというと、パートタイム、アルバイトとして働いてくれている、もしくはボランティアの数も含めて20名という計上になっています。ボランティアの中には、地元の方もいれば大学生、区内大学に通っている方、様々いらっしゃいます。

そして、どのようにフリースペースのことを知って来てくれたかということではいきますと、完全にネットワークです。知り合いの団体さんに、こういうところをやっているのだけれども誰かいい人はいないとか、そういった形でお話を広げていただいて、人を紹介していただくなど、そういった形でつながって来てくれているということになっております。ですので、コアスタッフは基本的に区内の方が多く、アルバイトはかなり幅広くに所在が分布しております。

ちょうど最近のお話ですけれども、もう少しスタッフの幅を広げたいというお話も運営のほうから聞いておまして、「合同で品川区が子どものためにこういう取組をやっています、説明会をやりますので来てください」というようなアイデアはどうですかみたいなお話もいただいているところなので、協力できる部分は区としても協力していきたいと考えております。

○ゆきた副委員長

確認できました。ありがとうございます。

通えない方もいらっしゃるかもしれないのですけれども、約200名の方が登録しているということで、居場所も今後2箇所目のところを確保していくように探していくとありましたが、スタッフ側の人

材についても確保していくというか、登録していくという動きも必要と思われます。人材の確保については、どういうふうにお考えかお聞きできればと思います。

○柴田子ども施策連携担当課長

スタッフは限られた人材というところですので登録制をというお話かと思いますが、おっしゃるとおりこの分野は志を高く持っていながらも、数としては少ないというふうに認識をしております。区が今は委託という形でフリースペースを実施しております、今後適地が見つければニーズに応じて新たなところもというところで検討をしているのですけれど、人に関してもそういった専門分野の方たちのネットワーク、少ないながらもネットワークは強固なものがありますので、そういったところと区がしっかりとつながっておいて、しかるべきタイミングでその方々のお力をお借りしたいというふうに考えております。

○せお委員長

ほかにございますでしょうか。

ほかになければ、以上で特定事件調査を終了いたします。

3 その他

○せお委員長

次に、予定表3のその他を行います。

その他で何かございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○せお委員長

よろしいですか。

以上で、その他を終了いたします。

以上で、本日の予定は全て終了いたしました。

これをもちまして、子ども若者支援・共生社会推進特別委員会を閉会いたします。

○午後3時10分閉会